

北九州市立図書館協議会会長 様

北九州市立中央図書館

館長 柴田 憲志

これからの図書館のあり方について（諮問）

北九州市立図書館は、昭和38年2月、旧5市の合併による北九州市の発足に伴い旧市立図書館が北九州市立図書館として新たな一歩を踏み出したことに始まり、本年度60周年を迎えました。

これまで本市図書館は、図書館に対する市民のニーズや図書館を取り巻く社会情勢の変化等に応じた適切な図書館サービスの提供に努めてまいりました。平成14年以降は、7年ごとに貴図書館協議会から図書館サービスのあり方について答申を受け、それを基本的な指針として図書館サービスの充実を図ってきています。前回の答申を受けた平成28年以降では、答申に基づく子ども図書館の開館や図書館外での図書返却体制の整備に加え、子ども電子図書館の整備、小倉南図書館の開館及び4分館の廃館・1分館の移転等を行いました。

そのような中、本市図書館は、読書バリアフリー対応、加速する少子高齢化、コロナ禍を契機として急速に進展したデジタル化、さらに施設の老朽化や厳しい財政事情など様々な課題に直面しています。今後、このような課題に対応しながら持続可能な図書館サービスを提供していくことが求められており、本市図書館のあり方は再度見直しの時期に来ていると判断するに至りました。

つきましては、今後の北九州市立図書館のあり方について、貴協議会に諮問いたします。

資料2-1

令和 6 年 5 月 22 日

北九州市立中央図書館
館長 神野 洋一 様

北九州市立図書館協議会
会長 中尾 泰士

これからの図書館のあり方について（答申）

令和 5 年 5 月 24 日付北九教中奉第 155 号で諮問のあった標記の件について、別紙のとおり答申します。

これからの図書館のあり方について
(答申)

令和6年5月
北九州市立図書館協議会

はじめに

北九州市立図書館では、平成14(2002)年以降、本協議会の答申を基本的指針として位置づけ、これを踏まえた図書館運営が行われてきました。

平成28(2016)年の前回答申に基づく50事業については、その全てに取り組み、各成果は毎年度、図書館評価として報告され、本協議会による評価も付してきました。

しかし、前回の平成28(2016)年答申から7年が経過し、図書館を取り巻く環境が変化する中で、読書バリアフリー化の促進、新型コロナウイルス感染症流行を契機とするデジタル化の急速な進展など、現在、図書館には多様化・複雑化する課題への対応が求められています。

そこで、令和5(2023)年5月に中央図書館長より、これからの図書館のあり方について検討するよう本協議会に諮問が行われました。本協議会は、市民アンケートにより、市立図書館の利用状況や市民ニーズの把握に努めるとともに、他都市の公立図書館の視察を行ったうえで、これからの図書館のあり方について検討を重ねてまいりました。その結果、図書館の基本的な役割は大切にしながら、新たなニーズにも対応できる図書館となるよう、図書館運営の指針として、3つの「基本的な方向性」と8つの「施策の方針」を本協議会から提案します。

今後、この基本的な方向性及び施策の方針に基づき、図書館が具体的な運営計画を策定されると伺っているため、今回の答申では具体的な事業内容等には言及せず、基本的な方向性及び施策の方針を示すに留めています。

この答申がこれからの北九州市の図書館運営に活かされ、北九州市立図書館がより多くの市民に親しまれ、学びを支援し、生活の充実に資する場所となることを大いに期待しています。

令和6年5月

北九州市立図書館協議会

会長 中尾 泰士

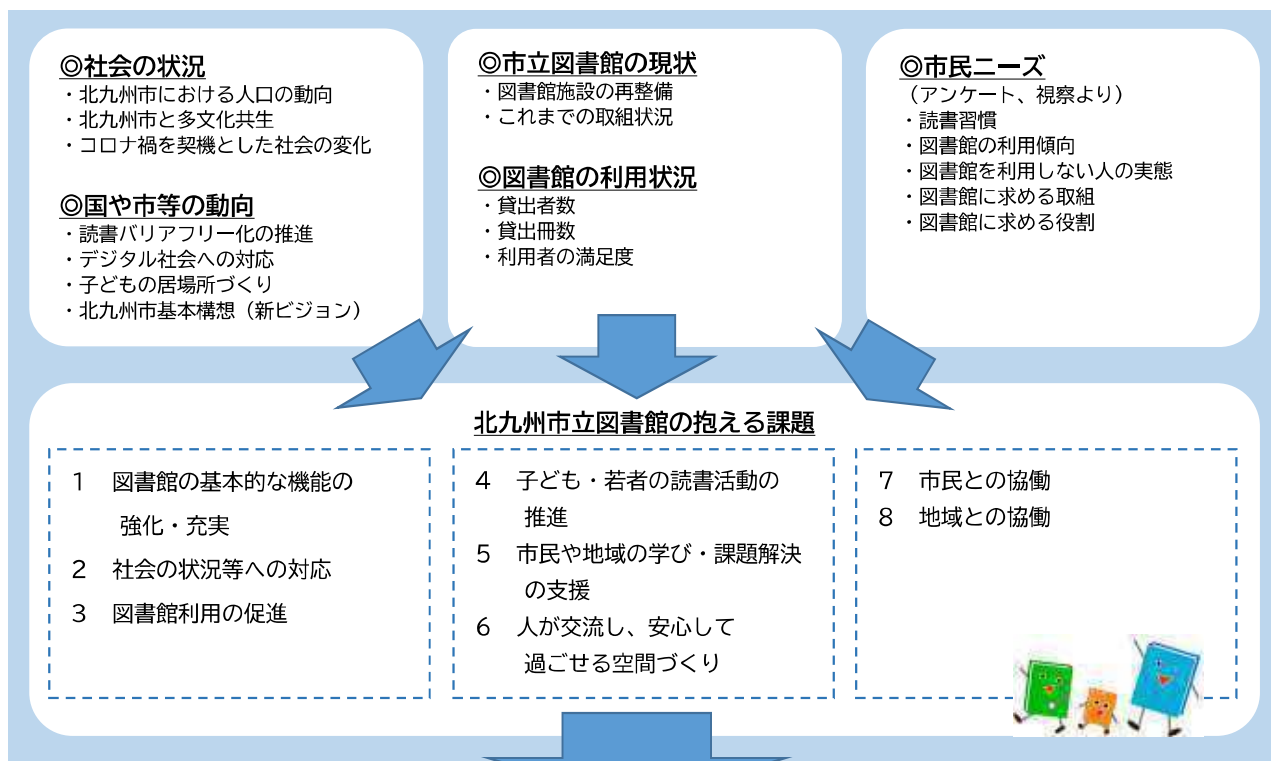
目 次

はじめに

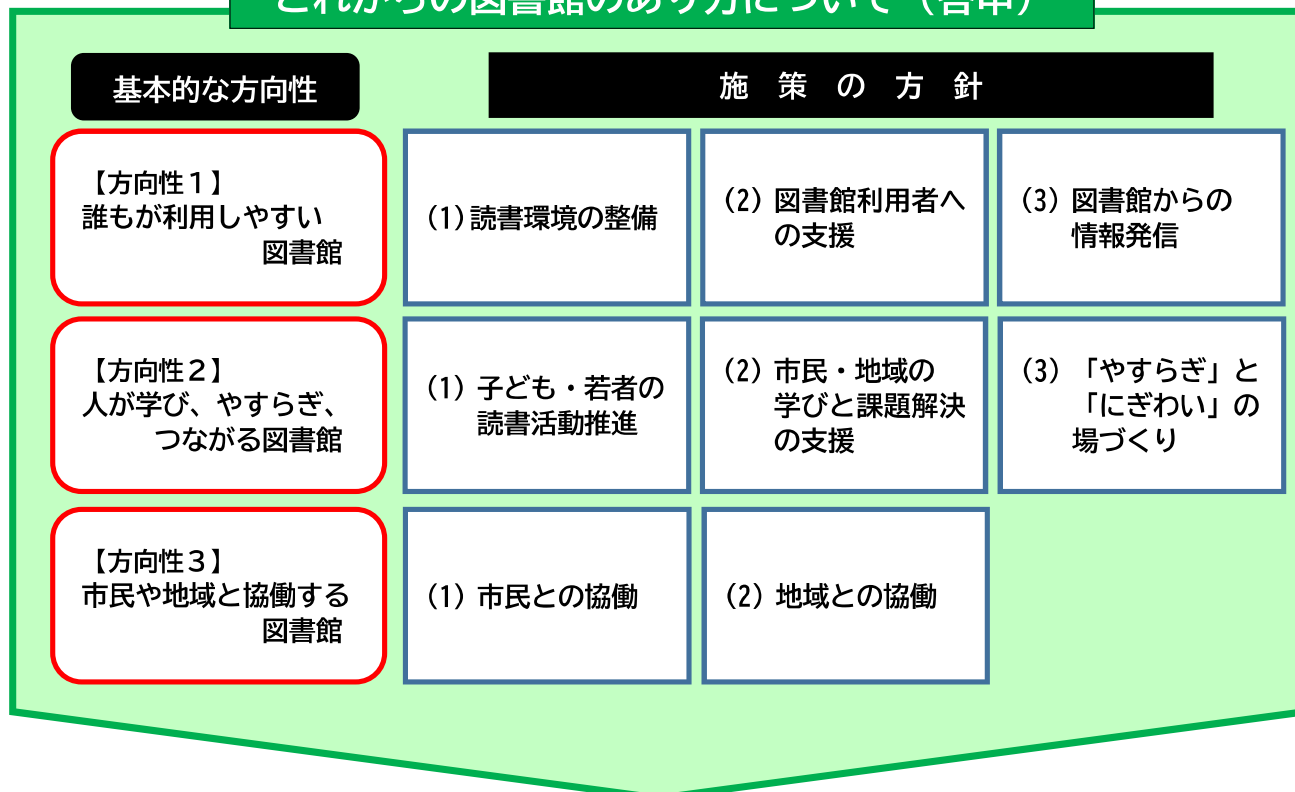
これからの図書館のあり方について(答申)【概要図】

第1章 現状と課題	1
1 北九州市立図書館の現状	1
(1) 前回答申(平成28(2016)年)以降の歩み	1
(2) 市立図書館の利用状況	2
2 北九州市立図書館を取り巻く状況	3
(1) 社会的な背景	3
(2) 図書館に関係する主な法整備や計画策定の動き	4
(3) 読書や図書館に対する北九州市民の意識	5
3 北九州市立図書館の課題とこれからの図書館のあり方	10
第2章 これからの図書館のあり方	11
1 基本的な方向性	11
2 施策の方針	11
資料編	15
1 これからの図書館のあり方について(答申)検討の経過	16
2 北九州市立図書館協議会委員名簿	16
3 図書館を取り巻く国や市の法令・計画(概略)	17
4 対象者別のアンケート調査実施項目	19
5 前回答申(平成28年)に基づいた取組	20

これからの図書館のあり方について(答申)【概要図】



これからの図書館のあり方について (答申)



答申を踏まえた図書館の運営計画

第1章 現状と課題

1 北九州市立図書館の現状

(1) 前回答申(平成28(2016)年)以降の歩み

ア 図書館施設の再整備

北九州市公共施設マネジメント実行計画に基づき、平成29(2017)年に勝山分館が、平成30(2018)年に企救分館、国際友好記念図書館及び戸畑分館が、平成31(2019)年には八幡東分館がそれぞれ廃止となりました。

一方で、平成30(2018)年には小倉南区民の強い要望のあった小倉南図書館と子どもの読書活動の推進拠点となる子ども図書館が新たに開館しました。さらに、令和4(2022)年には折尾分館が移転・開館しました。

その結果、市内に中央図書館(小倉北区)、子ども図書館(小倉北区)、6地区館(小倉北区を除く6区)及び6分館(門司区・小倉南区・八幡西区・若松区)の全14館が整備されました。

そのうち、中央図書館と子ども図書館を除く12館で指定管理者制度が導入されています。また、一部施設の老朽化により、建物や設備の修繕などが必要な状況となっています。

イ 図書館サービスのさらなる充実

図書館の利便性を高めるために、小倉駅構内とコムシティ(黒崎)前に返却ボックスが設置され、図書館以外での返却が可能になりました。

また、コロナ禍での子どもの読書や学習の機会を確保するために、令和3(2021)年4月、本市で初めての電子図書館となる「北九州市子ども電子図書館」が開設され、市内の小中学生へID・パスワードが配付されました。

さらに、地元ゆかりのある作家の作品の充実や、市民の課題解決支援のための分野別配架などが実施されました。他にも、来館のきっかけづくりのために、子ども図書館への読書通帳機の設置や、中央図書館での外国人市民の図書館ガイドツアー等が実施されました。

ウ 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2(2020)年に新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、その防止対策として、令和2(2020)年2月から令和3(2021)年6月にかけて、3度(計155日間)にわたり臨時休館が行われました。

一方で、令和2(2020)年6月24日から同年度末までは、開館時間の制限はあっ

たものの、閲覧スペース・学習室の座席の間隔の確保などの対策を取りながら、市民の読書機会の確保・維持が図られました。

令和5(2023)年5月8日に新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが2類から5類に移行されたことに伴い、感染症拡大防止対策は緩和されました。

(2) 市立図書館の利用状況

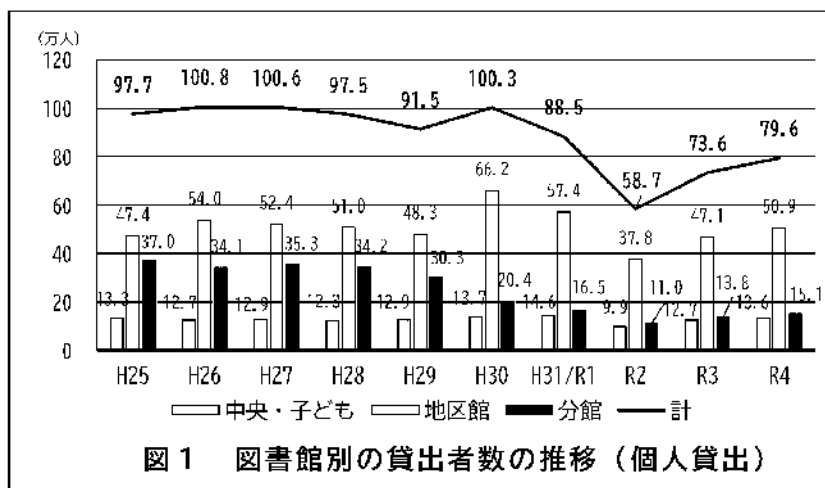
ア 貸出者数及び貸出冊数

ここ10年間の貸出者数の推移(図1)をみると、令和2(2020)年度から令和4(2022)年度までのコロナ禍において、市立図書館では臨時休館や開館時間の短縮などが行われたため、令和2(2020)年度の貸出者数は前年度から34%減と大きく落ち込みましたが、令和3(2021)年度からは回復傾向にあります。

また、分館での貸出者数は平成28(2016)年度から令和2(2020)年度にかけて減少する一方で、地区館の貸出者数は平成30(2018)年度に大きく増加しました。これは、平成29(2017)年度から令和元(2019)年度にかけて分館等5館が廃止となったことや、平成30(2018)年度に小倉南図書館が新規開館したことによるものと考えられます。

ここ10年間の貸出冊数(図2)についても、貸出者数と同様に推移しています。

なお、貸出者一人あたりの貸出冊数は3.8~4.0冊程度となっており、10年間で大きな変化は見られません。



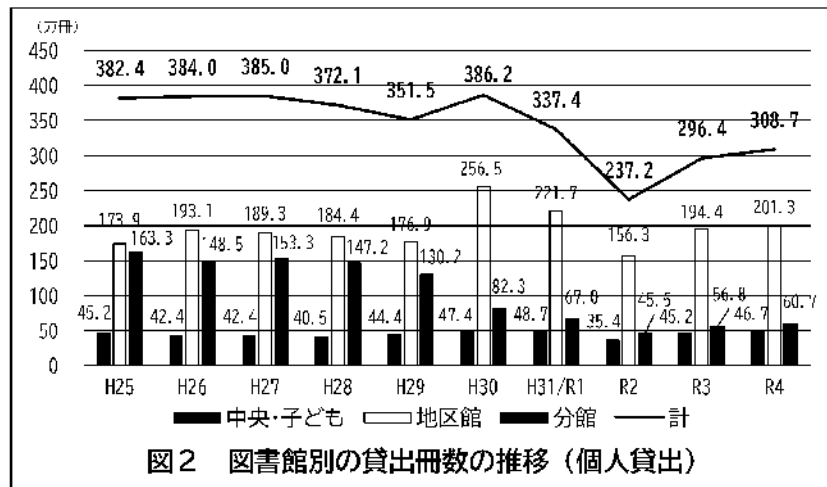


図2 図書館別の貸出冊数の推移 (個人貸出)

イ 図書館利用者の満足度

図書館では、利用者を対象に図書館サービスの満足度に関するアンケート調査が毎年度実施されています(令和元(2019)年度はコロナ禍のため未実施)。その結果によると「非常に満足」又は「満足」とする回答の割合(図3)の合計は、「職員の応対」及び「職員の知識や説明」では98%以上、「調べものの支援」及び「展示・行事の内容」、「探しやすい配架」では90%以上となっています。「充実した蔵書」については他の項目と比べるとやや低い水準ですが、88%前後で推移しています。

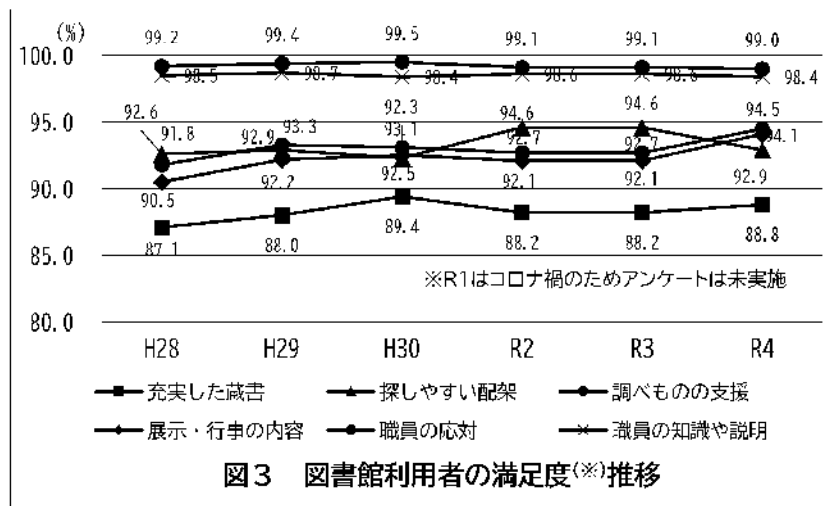


図3 図書館利用者の満足度(※)推移

※「満足」又は「非常に満足」とする回答の割合の合計。

2 北九州市立図書館を取り巻く状況

(1) 社会的な背景

ア 北九州市における人口の動向

北九州市の人口は昭和54(1979)年の106万8千人をピークに減少が続き、令和

5(2023)年10月時点では91万6千人となっています。そのうち、65歳以上の高齢者が総人口の約31%を占め(令和5(2023)年4月時点)、政令市の中で最も高齢化が進んでいます。一方で、出生率は平成22(2010)年以降過去最低を更新し続けるなど、少子高齢化の状況にあります。一方で、転入者数から転出者数を引いたマイナス幅は改善傾向にあります。

イ 北九州市と多文化共生

北九州市の総人口は減少傾向にありますが、市内に住む外国人の数については、年々増加傾向にあります。令和4(2022)年度末時点の外国人市民の数は約1.4万人で、北九州市の総人口の約1.5%を占めています。近年では多国籍化も進み、約100の国や地域にゆかりのある外国人が北九州市に住んでいます。また、在留目的についても永住、留学、技能実習など多様化が進んでいます。

ウ コロナ禍を契機とした社会の変化

令和2(2020)年以降の新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会全体で「オンライン化」、場所や時間にとらわれない「柔軟な働き方」、家族や健康、自分らしさを大切にする「持続可能な暮らし方」、東京一極集中を回避するための「地方分散の取組」等、働き方や人々の価値観にも変化が生じています。

(2) 図書館に係る主な法整備や計画策定の動き

前回の答申(平成28(2016)年)以降制定された主な法律、国や市の計画等は、次のようなものがあります。

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(読書バリアフリー法)」(令和元(2019)年6月)では、図書館は、視覚に障害がある方等が利用しやすい書籍等の充実や利用支援の充実などが求められています。

「デジタル社会の実現に向けた重点計画」(令和5(2023)年6月)では、図書館等の社会教育施設がデジタル技術を活用し、地域の教育力を高めること等が求められています。

「こどもの居場所づくりに関する指針」(令和5(2023)年12月)では、多様な子どもの居場所づくりを進めるに当たり、図書館等の施設等既存の地域資源を活用することも有効とされています。

北九州市の動きとしては、「北九州市基本構想・基本計画」(令和6(2024)年3月)が策定され、本市の目指す将来像が示されました。また、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」(令和元(2019)年8月)は、令和6(2024)年度に改定予定で検討が進められています。

図書館の運営に当たっては、これらの法律や各種計画等を踏まえて行っていく必要があります。

(3) 読書や図書館に対する北九州市民の意識

この答申にあたり、中央図書館が実施したアンケート調査の結果をもとに、市民の読書の実態や図書館への要望等の把握を行いました。

ア 実施概要

一般市民	18歳以上の北九州市民(無作為抽出)	692人
図書館利用者	市立図書館(14館)の利用者	822人
小学生	小学6年生(各区1または2校抽出)	606人
中高生	中学3年生(各区1校)	393人
	高校3年生(各区1または2校抽出)	558人

※「一般市民」及び「中高生」、「小学生」には、図書館を利用する人も含まれます。

※小学生対象のアンケートは質問数を減らし、表現も平易なものに変更して実施されました。

イ 結果概要(一部抜粋)

ここでは、アンケート調査結果のうち読書の実態や図書館に求めること等について、図書館利用者でない人も含む一般市民と小学生、中高生を中心にまとめました。

○読書習慣・図書館の利用について

●読書習慣

ひと月に読む本の冊数 (図4)

- ・一般市民全体では、「1～3冊」が約半数で、最も多い
- ・一般市民のうち、「0冊(読まない)」は全年代で25%超で、20代では約半数(48.9%)

●図書館の利用

図書館の利用頻度

- ・20代は「ほとんど利用しない」「全く利用しない」が70%超
- ・中高生も「ほとんど利用しない」「全く利用しない」が60%超
- ・30代以降、「ほとんど利用しない」人が減り、「年に数回程度」以上利用する人が増える傾向

本の入手手段

- ・20代は他の年代と比べて、図書館等で借りて読書をする人が少なく、一方で電子書籍を購入して読書をする

●図書館の利用のしかた

図書館の利用目的

- ・一般市民と図書館利用者では「本や雑誌、CD・DVDを借りる・返す」が「本を読む」より多いが、小学生と中高生では逆転
- ・中高生では「学習室利用」が最も多い
- ・30代は「子どもと過ごす」の割合が他の年代よりも多い
- ・一般市民全体では「借りる・返す」、「本を読む」に次いで「調べ物をする」が3番目に多く、4番目が「のんびりする」

滞在時間

- ・一般市民と図書館利用者で最も多いのは「30分～1時間未満」であるが、中高生では「1時間～2時間未満」と長くなっている

●図書館を利用しない理由

「ほとんど利用しない」「全く利用しない」人の、利用しない理由

- ・20代では、多い順に「借りたり、返したりが面倒」「図書館に行く時間（暇）がない」「インターネットを利用して調べ物をしているので行く必要がない」
- ・中高生では、多い順に「本や図書館に興味がない」「図書館に行く時間（暇）がない」「借りたり、返したりするのが面倒」

○図書館に求めることについて

●図書館に求める取組等

図書館を今後利用しやすくするために求めること（表1、図5）

- ・一般市民と中高生では「ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実」が最も多い
- ・「読書スペースやパソコン席の充実」は、全ての対象者で2番目に多い
- ・その他、「蔵書の充実」「イベントの開催」「子どもが読書や図書館に親しめる取組」が多い

●図書館に求める役割

図書館でどんなことができたらよいか（表2、図6）

- ・小学生は「家族や友達といっしょに楽しく過ごせる」が最も多く、それ以外は「ふらっと立ち寄り気兼ねなく過ごせる」が最も多い
- ・中高生では、「暑さ・寒さ・風雨を避けて快適に過ごせる」「家族や友達と一緒に楽しく過ごせる」「グループで交流できる」も多い
- ・一般市民と図書館利用者では、「様々な世代が楽しくイベントに参加できる」「生活や仕事、学習に役立つイベントに参加できる」も多い

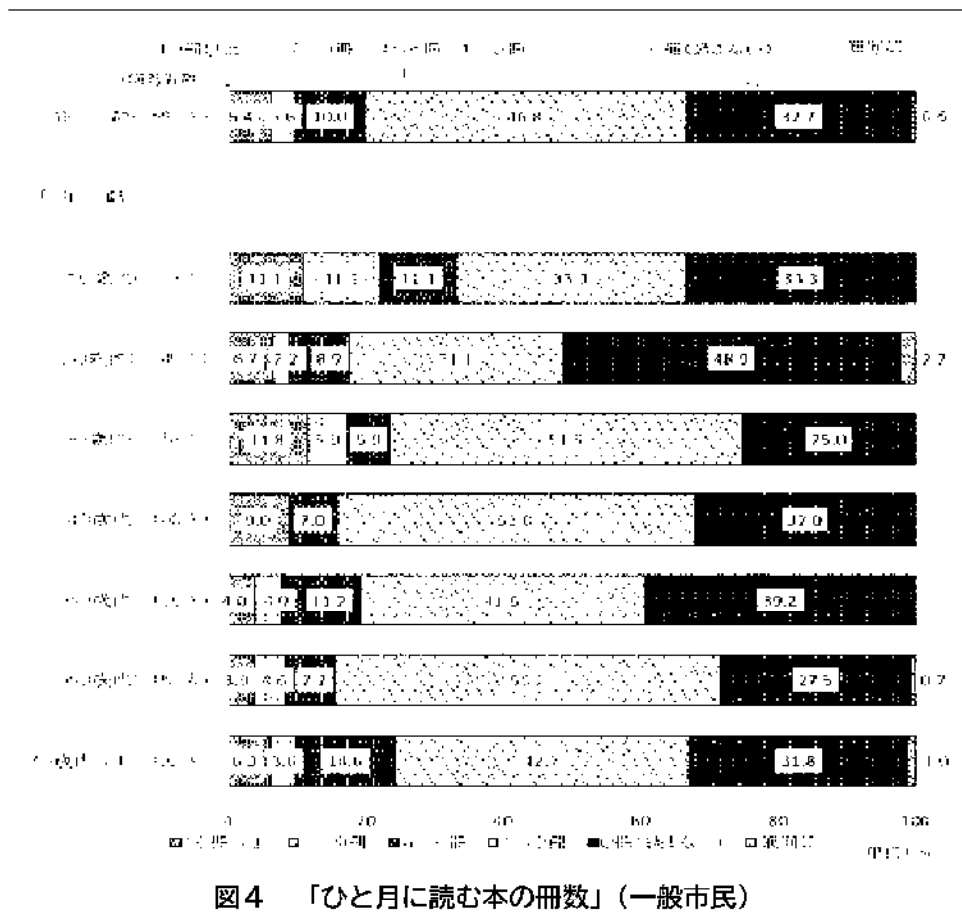


表1 「今後利用しやすくするために図書館に求めること」(対象者別)

	一般市民 (N=692)	図書館利用者 (N=822)	中高生 (N=951)
1位	ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実【236】	蔵書の充実【483】	ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実【614】
2位	読書スペースやパソコン席等の充実【208】	読書スペースやパソコン席等の充実【216】	読書スペースやパソコン席等の充実【404】
3位	蔵書の充実【203】	ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実【192】	若者が読書や図書館に親しめる取組み【189】
4位	図書館を訪れたいくなるようなイベントの開催【160】	図書館を訪れたいくなるようなイベントの開催【149】	蔵書の充実【164】
5位	子どもが読書や図書館に親しめる取組み【142】	子どもが読書や図書館に親しめる取組み【146】	調べ物や本・資料を探す手助けの充実【138】

※複数回答(最大5つまで選択)可の質問。【 】内の数字は、回答数を示す。